

山本敏晴
Toshiharu Yamamoto

アフリカの最貧国から アジアの最貧国へ



写真 = 筆者

介の医師であったため、そこまでの政治交渉をする機会はありませんでした。今回のMERUの活動では、大局的な政治交渉からもうとも末端の、直接の医療・教育活動まで、その全てを自分で統括する立場で派遣されたため、自分の行った活動が将来どういった形で残るのかを、確認することができません。その分責任は重大ですが、現地の人々のためによりよい形の医療を残すために、がんばっていきたいと思っています。

アフリカに位置するシエラレオネには、ガラと呼ばれる素晴らしい織物や、独特の音楽など、文字によらない文化がたくさんあったのですが、ここアジアに位置するアフガニスタンには、日本人に馴染み深い、文字による文化がたくさんあります。

たえば、文学や歴史書ポエム（詩）、カリグラフィ（書道）などです。こうしたシルクロード経由で入ってくるような文化は日本人に親しみやすく、アフリカとはまた違った側面で現地の文化を尊重できるのではないかと考えております。

もう一つ、シエラレオネは国連などの介入によって現在なんとか停戦の状態にありますが、アフガニスタンではまだずっと内戦が続いております。特に私がある北部では各地の軍事派閥が毎日戦闘を続けており、さながら日本の戦国時代のような感じです。つまり、戦争がほぼ終わったシエラレオネでは未来の医療活動を計画しやすいのですが、まだまだ戦争が続いていくアフガニスタンでは、そうした計画をまったく立てられない状態にあります。

さて、こうしたさまざまな点で前回のシエラレオネと異なる今回のアフガニスタンのプロジェクトですが、難しい中でもなんらかの、意味のある、未来へと残っていく活動を、現地の人と会話しながら模索していきたいと思っております。

（筆者）国際医療ボランティア・派遣医（R）

みなさんは、西アフリカにあるシエラレオネという小国を知っていますか？ この国は、平均寿命34歳（世界最短）、乳児死亡率世界最悪、妊産婦死亡率世界最悪など、まぎれもなく世界で最も医療事情の悪い国です。

2年前、国境なき医師団（Doctors Sans Frontiers : MSF）の要請でこの国に派遣された私は、本当に意味のある国際協力の形を求めながら仕事をしていました。当時私が思っていた国際協力の形には、いくつかのポイントがありました。一つは、未来へとずっと続いていける医療システムを作ること。もう一つは、現地文化を尊重した形の国際協力をするということです。

（一番目の）未来へと続いていくシステムを作るために私が主に行っていたことは、教育です。半年たって私が日本に帰ってから、現地の人間たちだけで私がいいたときと同じレベルの医療を実現でき

なければ国際協力は意味がない。このために通常の診療の合間をぬって徹底的な医療教育・公衆衛生教育を行いました。これにより、私がいなくても、現地周辺の肺炎などによる死亡率が悪化しないことを確認してから帰国しました。また日本に帰ってから広報活動を広く行い、シエラレオネという国をできるだけ多くの人に知ってもらい、寄付金を募ったり文化の交流ができるような活動を行いました。

（二番目の）現地文化を尊重するために私がしたこと、とりあえず現地の言葉を覚え、彼らと同じ視線で話し、彼らの国の未来にどう何をするのが正しいのか、上から見下ろさずに考えることでした。このために私はなんとが現地の言葉を覚えようと努力をし、床に座り込んで患者さんと同じ目の高さで診察をするように心がけました。

一応それらの結果、私がいなくなっただけでも、ある程度高いレベルの医療を実現でき、また現地の患者さんから精神的にも受け入れられた医療活動ができたのではないかと考えております。

しかしながら、上記の活動にはいくつかの問題がありました。それは、それらを改善し、よりよい国際協力を行うために私は日本医療支援機構（Medical Relief Unit, Japan : MRU）という団体からの要請で、現在アフガニスタンにやってきております。以下それぞれのポイントについて説明させていただきます。

（一番目の）未来へと続いていけるシステムをより確実なものにするためには、NGO（非営利民間団体）であるMSFやMERUから、将来的に現地政府の保健省へと病院の人員・建物・システムの全てを渡し、運営方法を教えるなければなりません。ところが前回のMSFの活動では一

介の医師であったため、そこまでの政治交渉をする機会はありませんでした。今回のMERUの活動では、大局的な政治交渉からもうとも末端の、直接の医療・教育活動まで、その全てを自分で統括する立場で派遣されたため、自分の行った活動が将来どういった形で残るのかを、確認することができません。その分責任は重大ですが、現地の人々のためによりよい形の医療を残すために、がんばっていきたいと思っています。

（二番目の）現地文化を尊重するために、私はまず現地の言葉を覚えようと努力しました。ところが、シエラレオネではこれがかなり大変でした。この国には、文字がなく、しかして言語を覚える教科書はおろか、辞書すらなかったからです。

もちろん、教えてくれる先生もいません。このため、車で移動する時にドライバーに頼んで教えてもらったり、現地スタッフの家へ遊びに行ったり、時に夕食の食べ物の単語を覚えてもらうしかありませんでした。

最終的には、なんとか患者さんの診察をしたり、現地スタッフに医療関係の講義ができるくらいにはなりましたが、やはり現地文化を理解する、というところまでは遠く及びませんでした。

このような前回の教訓を生かし、今回のアフガニスタンでは、派遣される前からアフガニスタンの言葉（タリ語・ペルシャ語の方言）をあらかじめ学習しました。これにより現地へ行ったその日からある程度会話できる状態にしてきたつもりです。その分、現地の人との交流の機会は、だいぶ多くなったのではないかと考えております。

さて、この二つの改善策以外に、今回のアフガニスタンのミッションではいくつかの新しい側面があります。

うわっ、高いなあ、どうしようかなと5分くらい悩んだあげく、結局買ってしまった。復刻版「それいゆ」（国書刊行会）。こ存じ、敗戦直後に中原淳一が創刊したファッション雑誌だ。6号分に新編集の別冊1巻がついて28000円。ちなみに「それいゆ」の当時の定価は180円。悩むでしょう、やはり、とはいえず1冊丸ごと手元にあると、細部までじっくり読めるのが嬉しい。たとえば女性誌の必須科目、恋愛指南。これがすごい。「日本文学にみる愛の告白」と題し、『潮騒』『武蔵野夫人』『斜陽』『白痴』等（思えばこれらは当時の同時代文学だったのだ）の告白シーンを荒正人が得々と紹介してたりする（54年秋号）。「歌舞伎 らぶ・るまんす」と称し、寺川知男がお七吉三、お染久松、お夏清十郎等の恋模様を解説してたりもする（55年春号）。飯島正のメロドラマ論（54年秋号）など、いまなら「ユリイカ」にでも載りそうなレベル。メロドラマは、ある意味では「社会劇」に近いものになります。（略）しかし、せんだって大映でつくられた『金色夜叉』が、社会劇であったかどうかは、いたって疑問です。『君の名は』を一般の観客がそのつもりで見ただけでもあやしいものです。そして、いわく、じり貧のメロドラマは、ボイコットをしたいものですね。文芸・映画・演劇への関心が異常に高く、恋愛は学べなくても教養人にはなれそう。吉屋信子や中原淳一に再びスポットライトが当たる昨今。レトロ趣味や少女趣味（メロドラマ？）では片づかない何かがあるのかも。しかし、これって、太陽の季節の時代の雑誌なんだよな。価値高し。ちょっとだけシヨック。（洗）

大好評既刊
若き情熱的な医師が奮闘する
本当の国際協力
山本敏晴著
世界の一番
いのちの短い国
シエラレオネの国境なき医師団
本体一四〇〇円

神話はいかに成立したのか

「パリ写真の世紀」

今橋映子[著]



つたアンリカルティエ・ブレンソン
といった面々である。
また、その発表媒体も、グラフィック
誌から、写真家自身がレイアウト構
成してひとつの作品として制作して
いく写真集へと向かう。それにとも
ないジャック・プレヴェールらの同
時代の文学者や詩人と共鳴して、文
学と写真の共同作風が生み出されて
いく。

はたして、絵巻物で流布している
「甘い」パリ写真というイメージは
どこで誕生したのか。
本書は、膨大な写真と資料を駆使
し、文学とのかわりから、パリ写
真を論じていく画期的論考。

「郊外」人であることにこだわった
ロベール・ド・アノー、西欧脱出を図
ろうとしたアンリ・ド・ラモット、各章
ともベケットの足跡と業績を丹念
に追う。登場する人物も多彩をき
わめ、二十世紀文学・文化史的に
見ても興味は尽きない。

全体は二十六章に分かれ、上巻
は「ゴドー」の執筆開始を扱った
十五章まで、下巻は十六章から
最晩年を描いた最終章まで。著者
はベケット研究の第一人者で、
「わたしは作品を最もよく理解
している人」とベケットは言っ
た。

（高橋康也、井上善幸、岡室美奈子、
田尻芳樹、堀真理子、森尚也訳）
A5判 ⑤五八八頁＋口絵一六頁
⑤五三四頁＋口絵一六頁 各巻本
体九八〇〇円 5月下旬発売

二十世紀最大の劇作家の全貌!

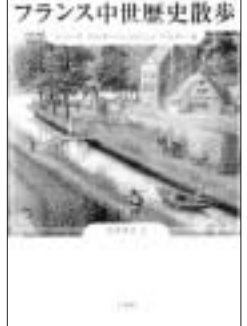
「ベケット伝 上巻・下巻」

ジェームズ・ノウルソン[著]



その返事は、「君が書くのならイ
エスだ」。
本書は、一九八九年十一月、八
十三歳で世を去ったベケットが唯
一認可した伝記である。ベケット
から積極的な支援を受け、また
家族、友人などから膨大な資料を
提供された。なかには、ナチスの
支配が色濃くなったドイツへ旅行
に行った際つけていた「日記」の
レジスタンス活動、母親との波乱
に富んだ関係、父親の死後に受け
た精神療法、師ジェイムズ・ジョ
イスとのつながり、「ゴドー」を待
ちながら「初演時の反応、ノーベ
ル賞授賞式欠席の余波など」、各章
ともベケットの足跡と業績を丹念
に追う。登場する人物も多彩をき
わめ、二十世紀文学・文化史的に
見ても興味は尽きない。

たつたアンリカルティエ・ブレンソン
といった面々である。
また、その発表媒体も、グラフィック
誌から、写真家自身がレイアウト構
成してひとつの作品として制作して
いく写真集へと向かう。それにとも
ないジャック・プレヴェールらの同
時代の文学者や詩人と共鳴して、文
学と写真の共同作風が生み出されて
いく。



フランス中世歴史散歩

名ガイドと巡る歴史の旅

「フランス中世歴史散歩」

レジーヌ&ジョルジュ・ペルヌー[著]

ヤヌ・ダルクの時代まで、封建
制度下のフランスを生き生きと再
現するために、彼らは各地方ごと
の歴史的記念物や伝統、そして当
時の人々の生活様式、慣習などを
詳細に紹介している。

「ウィリアム征服王のノルマン
デー」「修道士の国ブルゴーニ
ユ」などと題された十一の章のな
かで、二人の「旅する歴史家」は

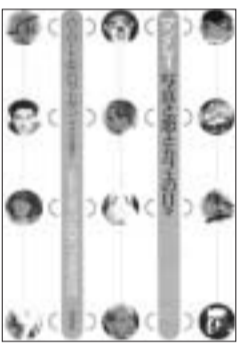
あたかも読者といっしょに歩くが
ごとくに、その豊富な知識をもと
に歴史の魅力語る。学問的な裏
付けがあり、また啓蒙的でありな
がら、決して研究書ではなく、観
光ガイド的な面白さを兼ねそなえ
ている。知られざる英雄伝説に息
を呑み、あるいは歴史のかけに消
えていった人物に思いをはせ、は
たまたま紋章の由来や中世の衣装を
学ぶうちに、ひとはみずからが立
つこの大地が中世と地続きである
ことに感銘を覚えるであろう。

北フランスからプロヴァンスま
で、中世の名ガイドとともに巡
るフランス歴史の旅。(福本秀子訳
四六判 二六〇頁 本体二二〇〇
円 5月下旬発売)

写真の名作を生んだ友情と恋愛

「マン・レイ 写真と恋とカフェの日々」

ハーバート・R・ロットマン[著]



芸術家たちがマン・レ
イに写真を撮られるこ
とで、交際の輪が広が
り、多くの友情や恋愛
が生まれていったの
だ。
ただ、もちろんそこ
には思想や芸術、政治
的に敵対する派閥の争いがあり、恋人
や夫婦の喧嘩があり、悲しい永遠の別
れもあった。マン・レイはそうした場
面にも立ち会い、数多くの名作を生み
出したのだ。

また、出会いの場として欠かせない
新しいカフェの開店やパーティーがあ
れば、そこにも必ずカメラを構えるマ
ン・レイの姿があった。ジョイスやヘ
ミングウェイなど外国から訪問した芸
術家たちにとっても、マン・レイのス
タジオ詣では欠かせない儀式だった。
本書は、マン・レイを「狂言回し」
にして、芸術の都モンパルナスに集つ
た多士済済の意外な関係や楽しいエビ
ソードを描いた、興味尽きない読物。
(木下哲夫訳 四六判 二九八頁 本
体二五〇〇円 5月中旬発売)

人類の財産、名言集の決定版!

「気分はいつもシェイクスピア」

小田島雄志[著]



つまでもほくの心にとどまって、慰め
や励ましとなってくれました。それを
独り占めにしてはもったいないよ
うな気がして、二百ほど集めてお目
にかけることにしました」と、「あとが
き」にもあるように、シェイクスピア
劇のなかの名セリフを十章(恋愛、友
情、悲喜、苦悩、悪徳、自然、時間、
人間、人生、運命)に分け、セリフの
背景説明とエッセイを添えて構成した
名言集の決定版です。引用句索引と作
品索引も付いています。

「波をくぐり、くぐりして、ふと手
にふれた流木にすがりついてホツとす
る」というような思いをしたことがた
びたびありました。シェイクスピアの
ことばの海を泳いでいるときにふと出
会ったセリフです。そのセリフはい
二四〇頁 本体一九〇〇円)

美術/写真

表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

【在庫僅少】の表示があるものは先着順とさせていただきます。万一品切れの際はご容赦ください。

キキ 裸の回想

キキ「ヒリー・クルーヴァー」他編
北代美和子訳 2600円【在庫僅少】

ピソンと過したある日の午後

コクトーが撮った
29枚の写真
北代美和子訳 2600円【在庫僅少】

ヨーロッパの写真史

横江文憲
2200円【在庫僅少】

アメリカ写真を読む

歴史としての
イメージ
アフレック・トラクテンバーク
生井英考・石井康史訳 5631円

マグナム

報道写真 半世紀の証言
ラッセル・ミラー
木下哲夫訳 3800円

写真の力

《増補新版》
飯沢耕太郎
2330円【在庫僅少】

写真時代の時代!

飯沢耕太郎 編著
2800円

写真時代の時代!

飯沢耕太郎 編著
2800円

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisa.co.jp

独和辞典はふたたび 個性化と成熟の段階に入った

佐藤正樹

「0862」
「ソフィスト列伝」
ジルベール・ロメイ・エデルベ「著」

プラトンやアリストテレスからの攻撃には、異議あり！本書は、西洋形而上学の名で「詭弁家」の烙印を押されてきたソフィスト8人（プロタゴラス、ゴルギアス、リュコフロン、プロディコス、トラシマコス、ヒッピアス、アンティフォーン、クリティアス）の生涯と著作を紹介し、その復権に努めている。

断片としてしか残されていない資料の数々から聞こえてくる声に、できる限り言葉を与え返す。ソフィストたちの弁明によって、ギリシア思想に対する偏見を晴らしてゆく、画期的な論考。（神崎繁、小野木芳伸 訳）
新書判 一九〇頁 本体九五円 5月下旬発売

書物復権

6月上旬発売

岩波書店・紀伊國屋書店・勤草書房・東京大学出版会・白水社・法政大学出版局・みすず書房・未来社の8社による共同企画《書物復権》では、毎年読者の皆様のリクエストを受けての復刊を実施しています。白水社からは今年以下5点がよみがえりました。

ホーレンシュタイン [川本茂雄、千葉文夫訳]

ヤーコブソン 現象学的構造主義

現代言語学の巨人ヤーコブソンの本質を、現象学と構造主義という一見対立する二項間の力学を通して、存分に解明した名著。彼の学際的かつ多岐にわたる業績は今日なお輝きを失っていないことに驚かされる。言語学はもとより思想・哲学・詩学・情報科学などに関心のある方々には見逃せない復刊です。
四六判 / 276頁 / 本体4800円

マルティネ [渡瀬嘉朗訳]

共時言語学

構造言語学、なかんずく音韻論の泰斗が、豊富な具体例をあげながら、言語学の対象規定、言語の恣意性と二重分節、機能性と経済性、音韻論における関与性、音声学との対比などを通じて、言語の全体像を描き出す。著者の言語観を圧縮した形で著した基本文献。
四六判 / 368頁 / 本体5200円

渡辺一夫

泰平の日記

十六世紀初頭、百年の戦火も漸くおさまったフランスでは、若きフランソワ一世の治世下、ルネサンス文化が花開いた。しかし外には宿敵カルル五世、ヘンリー八世との戦い、内には宗教改革の萌芽を抱え、この泰平の世は既に大いなる不穏を予感させた。一市民の日記を元に鮮やかに再現される時代の風貌。
合判 / 282頁 / 本体4800円

コンラッド [富士川義之訳]

オペラを読む ロマン派オペラと文学形式

「オペラが真に文学的な類縁性をもつのは、演劇ではなく小説だ。」この大胆な仮説にもとづき、著者は、モーツァルト、ベルリオーズ、ヴェルディ、ヴァーグナー、R・シュトラウスらのオペラの構造に文学的な照明を与える。オペラと小説とのかわり合いを、広い視野のもとに捉えた挑発的な文学的オペラ論。
四六判 / 264頁 / 本体3800円

ヘドレイ編 [小松雄一郎訳]

ショパンの手紙

ショパンが書いた手紙、彼宛ての手紙、そして同時代人がショパンについて書いた手紙。これらの断片から生き生きとした作曲家の人間像が浮かび上がり、彼の生涯の物語が結晶化する。祖国ポーランドへの思い、第二の故郷フランスでの栄光、作家サンドとの関係が複数の視点から語られる貴重な書簡集。
四六判 / 546頁 + 口絵12頁 / 本体5800円

白水社が新しい独和辞典を作るらしいといういわさは、あの愛すべき癖と品格のある『独和言林』がまだ現役のころからあった。

『フロイデ独和辞典』
待った甲斐があった。いい辞書である。ドイツで最近改定された新正書法にもとづく、この規模の辞書としては最初のもの。コンピュータ用語なども含め、語彙数七万五千。近現代の文章を読むのにさほど不便を感じない十分な語数だといえる。編者が「序」に述べており、まずは訳語訳文がみごとである。見出し語の大きさや色などの工夫、参照項目の適切な指示、語と熟語にたいする理解を深めるための明快な解説など、はじめてドイツ語を学ぶ人への親切な配慮も行き届いている。和独索引は作文にも役立つだろう。その他、図解小辞典、六曲の楽譜、主要都市図なども収められている。

しかし、やや個人的な感想にすぎないかもしれないが、一読者としていたく感動したのは文化的記事の豊かさである。付

録の詳細な「聖人暦」は、おそらくこの辞書だけの気骨のある試みである。編者は、ドイツ文化、ひいてはヨーロッパ文化に接近し肉薄するためには、キリスト

ちがいない。こうした本書の個性は、たとえばPetrusの項目に一目瞭然である。聖女Cecilieさえゲーテの解説よりも詳しいが、それでいいのである。Bernhard

グ・ゲーテのように姓名をすべてきちんと表記しているのは、初学者にたいしてだけでない細かな心配りであり、一つの見識である。

これらの情報が初学者にすぐ必要になるかどうかはまた別の問題である。この辞書は、はじめてドイツ語を学ぶ人から、ヨーロッパ文化に近づくために書物をひもとく、交信したいと願う、それを実践する段階の人までを広く読者として想定しているからである。むしろ、いわば無味乾燥な語学訓練も必要ではある。が、言語が文化のコンテクストから切り離せないこと、いや、言語が文化であるばかりでなく、文化が言語現象として如実に現れるというあたりまえの事実認識を辞書づくりの根本態度としてつらぬく編者たちの意欲と主張がひしひしと伝わってくる。本書にある種の品位が感じられるのは、おそらくそのためであろう。なるほど辞書も商品であるからには好き嫌いの対象になる。だとしても、それは本書がいわば無害な没個性とは一線を画する「癖」と「主張」をもっているからである。独和辞典はふたたび個性化と成熟の段階に入ったとも言える。それにしても、本書に引き継がれた『独和言林』の愛すべき個性の伝統は、白水社の愛すべき体質なのである。

(筆者) 広島大学教授

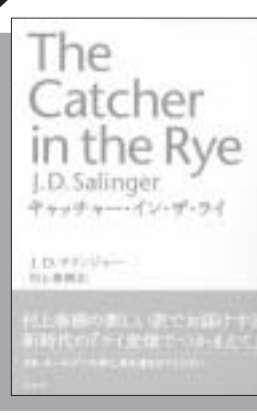
フロイデ独和辞典

[監修] 前田敬作
[編集] 山本雅昭
岸孝信
服部尚己
友田和秀
松村朋彦



B6変型判 1937頁【2色刷】 本体4000円

白水社 101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp



四六判 ハードカバー 本体1600円 (税別) 発売中

さあ、ホールデンの声に
耳を澄ませてください。

J・D・サルインジャーの不朽の青春文学『ライ麦畑でつかまえて』が、村上春樹の新しい訳を得て、『キヤッチャー・イン・ザ・ライ』として40年ぶりに生まれ変わりました。ホールデン・コールフィールドが永遠に16歳でありつづけるのと同じように、この小説はあなたの中に、いつまでも留まることでしょう。雪が降るように、風がそよぐように、川が流れるように、ホールデン・コールフィールドは魂のひとつのありかとなって、時代を超え、世代を超え、この世界に存在しているのです。さあ、ホールデンの声に(もう一度)耳を澄ませてください。

村上春樹の新しい訳でお届けする
新世代の『ライ麦畑でつかまえて』

J・D・サルインジャー
村上春樹訳

キヤッチャー・イン・ザ・ライ
The Catcher in the Rye

